



名前 _____
塾報受取日 _____ 月 _____ 日

1月の予定

- 12月28日 1月度授業料引落日
(1月8日引き落とし予備日)
12月26日 7時20分クラス休講
12月29日 Dream Card賞品引換
12月30日 冬休み開始
1月7日 授業再開
1月14日 あんざんチャンピオン大会
1月19日 i-test 一斉実施

午前10時30分～11時30分
西日本大会申込締め切り
(大会は3月10日)

1月27日 近畿珠算競技大会大阪予選
冬期休暇のお知らせ

通常授業は12月29日(土)まで行い、午後1時よりドリームカードの景品引き換えを行います。冬期休暇は12月31日(月)～1月5日(土)までで1月7日(月)から通常授業です。

なお、12月26日(水)の午後7時20分からのクラスはありませんので注意して下さい。

西日本大会のご案内

i-testの6種目すべて3rd stage以上の練習をしている皆さんが出場できます。参加希望者は1月19日(厳守)までに参加料2050円を納入してください。大会は3月10日、大阪商業大学で

行われます。

特別練習の予定

1月12日・19日・26日 5時～7時

☆☆☆ 対象 ☆☆☆

- アドバンスト・チーム (A-team)
- あんざんチャンピオン大会出場者
- i-test受験者
- 近畿予選会出場者
- 1～3級・段位受験者
- 西日本大会出場者

☆あんざんチャンピオン大会について☆

日時：1月14日 午後1時～4時30分(予定)

場所：大阪府立労働センター(エル・おおさか)「天満橋駅」下車徒歩5分

集合：現地集合現地解散を原則としますが引率を希望する皆さんは1月12日までに申し出て下さい。

練習：冬休み期間中に練習する問題を渡します。授業での練習は1月7日からの1週間と12日の特別練習となります。

☆ドリームカード賞品引換☆

当選賞品引き換えは12月29日午後1時～午後3時30分までです。当たっているカードを抜き出して、カードの表に賞品番号と賞品名を書いておいて下さい。はずれカードにも10枚につき1つ賞品がありますので、はずれたカー

ども持ってきておいて下さい。

混雑を避けるために賞品引換は次の時間に行ってください。時間帯の変更を希望する人は申し出て下さい。

なお、以下の条件に当てはまる生徒の皆さんは、28日までに当選したドリームカードと外れカードを提出することで、後日賞品をもらうこともできます。当日都合の悪い皆さんや、外れくじばかりを10枚以上持っている人たちは活用してください。

28日までにカードを提出できる生徒

- ①29日の都合が悪い生徒。
 - ②当選しなかった生徒で、外れカードが10枚以上ある生徒。
 - ③当選賞品数が3個以下の生徒。
- ※②③の生徒の皆さんでも29日に引き替えできます。

※29日に事前提出者の賞品準備をします。29日に引き替えできない皆さんは必ず28日までに提出してください。提出期日を過ぎますと交換できません。賞品は今年も約3000個準備します。教室全体に賞品を広げないと作業ができない分量ですので、必ず期日を守ってください。

賞品交換日 12月29日

時間帯	生徒番号
1時～1時30分	1 ～ 99
1時30分～2時	101～199
2時～2時30分	201～399
2時30分～3時	401～599
3時～3時30分	601～999

※小学5年生以上で、当日手伝えるボランティアを募集します。作業は午前10時30分の授業終了後から午後4時頃までですが、その間、ずっと手伝えなくても構いません。

1月実施 i-test について

1月のi-testは、1月19日午前10時30

分から6種目一斉に行います。受験希望者は18日までに申込用紙と受験料を提出して下さい。なお、19日に都合が悪い場合は、1月中ならいつでも実施できますので申し出て下さい。

※19日以外に受験する場合は、申込書と受験料の提出期限はありません。提出当日に受験することも可能です。

Advanced team (A-team)

結成

学年やi-testの成績、日常の練習量などで一定のレベルを超えた生徒の皆さんが所属できる教室グループを編成しました。今後、特別練習や大会出場に積極的に関わるようになっていきます。参加は強制ではありませんが、都合のつく皆さんはできるだけ参加するようにしましょう。意識を高く持つことで道が広がっていきます。

A-teamに参加できる生徒の皆さんには授業中に個別に案内をしています。

出席時間20時間以上の生徒

(12月20日までの1ヶ月)

金本愛夢56 山口愛未53 桑原彩衣51
山内星徳51 金本三夢48 桑原唯衣
46 金本大夢43 神山周43 山内優歩
41 山内美空39 岩成海37 森岡賢一
36 奥田あさひ35 佃花音32 桑原麻
衣30 奥田南海30 福田陸人29 湊結
子29 中村如月28 西村早貴27 有本
華帆26 木寺輝26 木村理仁26 田伐
志帆26 山根建太郎26 楓まい25 小
野澤怜花24 井上寛大24 松下菜々24
西島朝香23 今泉優衣23 白川香乃
23 西井颯一朗23 古川愛佳23 池田
菜乃子22 梶原太智22 前田謙吾22
森田航平22 久保田莉央21 竹下柊希
21 濱野恵太21 岩瀬菜々香21 齋藤
小春21 中島萌唯21 文沢駿介21 木

寺匠20 岡田亜瑠20 大内悠聖20 大内峻聖20 池田優花20 越野直希20 塚本旬20

猛スピードばく進中(PERFECT)

(初歩教材PERFECTを1ヶ月で20ページ以上進んだ生徒)

大土井楓賀80 加納温真77 森本爽月77 佐伯理仁76 田中歩73 岡村和奈65 黒田朋花52 大土井穂賀50 中川ひより50 竹下綾音48 小野澤遼46 有本仁栄34 河野優揮34 小石聡奈32 小田珠実30 原田小雪30 由比彩菜29 石田里穂24 安達菜々美23 引波未来乃22 楠戸遥葵21

フラッシュ暗算合格者

(12月20日までの1ヶ月間)

9段	岩成海
5段	山内星徳
1級	東阪怜奈 森岡賢一 吉富千夏
2級	梶原太智
4級	阪口隼都
5級	渡邊悠
6級	渡邊悠 有田蒼空
7級	窪田大誠 池崎佑磨
8級	窪田大誠 出合祐喜
9級	窪田大誠 加地世菜
10級	加地世菜

12月実施暗算検定合格者

1級合格	岡田遥 松下真之介
準1級合格	中上慶祐 小野澤怜花
2級合格	村上小晴 古川和佳
	東阪太陽 森岡賢一 久保田莉央
	越野貴也 谷川愛奈 中島萌唯
	東阪怜奈 山根建太郎 住吉美咲
	古橋晴香
準2級合格	田中友子 三田村航季
	吉田魁馬 仲谷愛花 明浦日香
	河田青大 大和蒼波 高橋情
	眞井夏希
3級合格	松下周子 住吉海飛
	松野未佳 井上葵実 松下菜々

白川香乃 前田謙吾 渡部愛弓
村垣夏南 植田成海

4級合格 永田綾稀 山本莉奈

5級合格 岩宗楓斗 石橋広太郎

谷侑樹

☆先月号の塾報で発表いたしました段位認定試験の種目別合格者に、「みとり算10段・わり暗算満点十段 山口愛未さん」の名前が掲載漏れでした。

検定試験について

現在、星の郷教室では以下の検定試験を実施しています。

1. 段位認定試験 (日本珠算連盟主催)
2. 珠算能力検定試験 (日本商工会議所主催)
3. 暗算検定試験 (一般社団法人大阪珠算協会主催)
4. 珠算・暗算能力テスト「i-test」 (一般社団法人大阪珠算協会主催)

1は年に3回、6・10・2月に実施されるもので、かけ算・わり算・みとり算の珠算段位と、かけ暗算・わり暗算・みとり暗算の暗算段位とに分かれています。種目ごとに段位が認定され、珠算・暗算のそれぞれの最低段位が総合段位となります。たとえば、かけ算5段、わり算4段、みとり算3段だとすれば、珠算総合段位は3段となります。種目段位は2年間有効です。かけ算とわり算に小数を含む問題が出題されます。

2は1と同日に行われる珠算のみの検定試験です。1～3級が認定されます。2・3級は星の郷教室で受験できますが、1級は北大阪商工会議所で受験します。段位と同様、かけ算とわり算に小数を含む問題が出題されます。なお、1と2は試験日が固定されています。

3は、3・6・9・12月の年に4回実施される暗算のみの検定試験で、1～6級までが認定されます。小数はありません。星の郷教室で受験できます。試験日は比較的融通が利きます。

4が2012年11月から始まった新テストで、奇数月に実施されます。種目ごとに教室で受験でき、原則として受験日も自由設定できます。かけ算・わり算・かけ暗算・わり暗算に小数を含む問題、わり暗算に余りを求める問題、かけ暗算とわり暗算に概数的な問題が出題されます。

4のテストのモデル実施校に指定されております星の郷教室では、2012年9月からi-testの本格的な練習に入りました。1～3の試験に慣れ親しんだ生徒も私も、当初はかなり混乱しましたが、練習種目は従来と変わらないのですが、中身は一変。問題に合わせて、乗除の計算方法を変更し、練習スタイルも変化しました。慣れるまで1か月ほどかかったでしょうか。

1日の授業が終わると、全員の答案のチェックを行います。再指導の必要な答案や間違い直しの必要な答案、最高点更新の答案などに分類し、次の練習に備えるわけです。

出席カードをバーコードリーダーにかざすと直ちに間違い直しの有無や練習問題のレベルアップ、指導の有無を表示するようにしていますが、そのための準備と確認が毎日の仕事に増えました。

従来から1～3の試験を受験していた生徒たちの多くは10月の1・2の試験、12月の3の試験を受験し、数名が11月のi-testも受験しました。また、1

～3の試験を受験したことのない生徒の皆さんは、11月のi-testのみを受験しました。

i-testをメイン教材として取り組んだ3か月。効果のほどは驚くべきものとなって現れてきました。

10月の段位認定試験で、多数の生徒に大幅な得点の上昇が見られたのです。いくつかの例を挙げてみます。

◎中1女子、みとり算、3段→6段。

◎中1男子、わり暗算、5段→8段。

◎小5男子、みとり算、3段→8段。

◎小4男子、わり暗算、6段→8段。

◎中1男子、わり算、4段→7段。

◎中1男子、わり暗算、7段→10段。

◎中1男子、かけ暗算、4段→6段。

◎小6男子、かけ暗、準初段→3段。

◎小6男子、わり暗、初段→4段。

◎中1男子、わり算、5段→7段。

◎小4男子、暗算総合、7段→10段。

6月検定から10月検定までの間の変化で思いつくことといえば、i-testを練習に採り入れて、計算方法の変更と的を絞った間違い直しにしたことと、教室移転による気分の刷新ぐらいでしょうか。しかし気分を刷新した程度で、これほど多くの生徒に変化が表れるはずもないので、要因はi-testだと断定できるでしょう。

12月の暗算検定でも3級を受験した22名の生徒の答案の中から、従来までなら続出していた特徴的な誤算が完全と言っていいほど無くなりました。

この誤算は、i-testの答案チェックですべて『要指導』に回されるものです。i-testを導入する前からこの種の誤算をチェックしてはいましたが、他の間違い直しに紛れ込んでしまって生徒

の印象の深いところまでは到達しなかったのだろうと思います。

今は、間違えた問題の分析を生徒自身の口から言わせるようにしていますので、「あっそうか」という体験が完全になされているのだと推察されます。

i-testをメイン教材として、他の検定や競技大会をスパイスに全員のさらなるレベルアップを目指す2013年にしたいと思っています。

塾報150号

開塾直後から月に1回発行し続けています塾内報「Star EXPRESS」が、今月号で150号となりました。

そこで今回はちょっとだけ過去を振り返って、100号で書きました文章を再掲して、そろばん学習が目指すものを再確認したいと思います。

珠算学習の本質

☆入会動機あれこれ

保護者の皆様方は様々な思いや目的をお持ちになって、子どもたちを当教室に通わせていただいているものと思います。もちろんそのきっかけは単に「近いから」という理由だけの方もいらっしゃるでしょうが、なかには多くの習い事の中からわざわざそろばんを選択してくださり、そして数多くあるそろばん教室の中から当教室を選んでくださっている方もいらっしゃるかもしれません。

私から当教室へのご入会の動機を質問することは稀です。話の流れでそうなったことは数回あるかもしれませんが、意識して尋ねるようなことはありません。

興味が無くはないのですが、本当に「近い」という理由だけで選択しましたと宣告されるのも、今の首相風に言

えば「いかがなものか」という気がしますし、かといって「どうしてもおたくに…」と少女漫画的瞳キラキラ状態で迫られましてもプレッシャーに押しつぶされそうで結構ズシンと来るものがあります。

まあ、どういう理由で入会されるにしろ、お子様の成長期にそう短くはない時間を私と共に過ごすことになるわけですから、ズシンと重く受け止めるのは当然のことですが、本心を言えば、ご入会の理由を聞かないのは、生徒やその保護者の皆様に無用な先入観を持ちたくないという願いや狙いがあることです。入会動機に“目的”の違いがあることは当然ですが、動機に“優劣”までもがあるとは一方的に私が決めつけてしまうと、今後の心境に少なからず影響を与えてしまうと危惧しているからなのです。日頃、立場上子どもたちには偉そうな口ぶりで接することもままありますが、しかし私とて感情に流されやすい弱い部分を持っていることを重々自覚しています。だからこそ…、先入観や一時の感情によって支配されやすいという自覚を持っているからこそ、あえて危険領域に最初から足を踏み入れないでいるのです。

さてさて、先に入会動機の“目的”について違いがあると書きました。今まで伺いした中での主なものは、「計算力（暗算力）養成」「能力（脳力）開発」「集中力養成」「学習習慣の確立」「しつけ」「人間性向上」「社会性向上」などがありますが、大多数を占めているのは、やはり「計算力（暗算力）養成」です。

テレビなどでよく取り上げられるフラッシュ暗算が好例ですが、珠算式暗算の威力には凄まじいものがあります。たとえば「 $262016 \div 712$ 」。当教

室の卒業生と現役生だけで数えてみても、この問題を5秒以内で正答を記入できるのは数十人います。3秒で正答すると10段ですが、除暗算10段相当の実力を持つ卒業生・現役生は10名ほどいて、1～2秒、すなわち前の問題の答えを書きながら次の問題の計算を終了させていて、見ている人の目には答えを書き続けているように見えるほどの実力を持つ生徒も5名程度います。1題2秒というのは、筆算式だと、まだ問題すら写せていないほどの時間でしょうか。

これほどまでの計算力（暗算力）が養成される訓練は珠算学習において他にはありませんから、珠算学習の第一目的として「計算力（暗算力）養成」が挙げられるのは至極当然のことでしょう。

しかし、この地で開塾して10年目に突入した現在の私の胸に去来するのは、もしかすると「計算力（暗算力）養成」努力によって得られる計算力は、珠算学習に熱心に取り組んだ結果ついてくる「おまけ」や「ごほうび」のようなものではなからうかという、確信にも似た思いです。

☆入会直後

では、「おまけ」や「ごほうび」を生み出す本丸は何かといえば、それはとても抽象的な表現で恐縮なのですが、「珠算学習そのもの」に違いないのです。

入会1日目。ふつうは保護者の方が横につきます。子どもたちは私の視線と保護者の視線の二つを意識しながら、おそろおそろ、かつワクワクしながら第一歩を踏み出します。未知である私の視線に対する不安を、既知である保護者の方の視線で和らげながらゆっくりと進んでいくのです。しかし、やはり少し緊張感の方が勝っているよ

うで、私から「大丈夫か？息、吸ってるか？」と聞かれる人も多いのですが、真新しいカバンや教材に筆箱、下敷きに鉛筆、いくつかのカード類、そして新たに購入した人は新品のそろばん…、これらのグッズに囲まれて、不安もどこかへ飛んでいき、期待に大きく胸をふくらませて元気よく帰ってきます。

ところが、運命の2日目。頼りになる保護者の姿はありません。ありとあらゆることを自分でやらなければなりません。教室に入る前から、出てくるまで、おそらく緊張し通しでしょう。学校では、自分一人だけが知らずに、他の人たちが知っているという場面はまずはありません。新入学にしろ進級にしろ、全員が同じ条件ですから、「知らない」という不安感をことさら一人だけで持つことはありませんが、すでにまわりが「できあがっている」珠算塾では、自分だけが知らないことばかりです。出席カードはどこに出すのか、バーコードカードはどこで読み取らせるのか、どこに座ればよいのか、座ればまず何をするのか、誰に採点を依頼すればいいのか、どこで教えてもらうのか、などなど、数え上げれば数多くの「？」が次々と襲ってくるのです。

これらの不安な気持ちは、わずか1週間もすればほとんどが記憶の彼方に消え去るほどのものなのですが、入塾直後は矢継ぎ早に与えられる作業指示と行動指示に、さぞかし面食らうことでしょう。

しかし、実はこれらは、今後遭遇する様々な試練のほんの序の口にしか過ぎないのです。

☆「教えてくれない・教えない」のは変？

「わかりません。教えてください」

と、生徒。「わかります。教えません」と私。

そう言えば、現在非常勤講師として午前中にそろばんを教えに行っている立命館小学校宛に、保護者から送られてきた手紙を思い出しました。曰く、「テキストに『先生に教えてもらいましょう』という表示があるのに、金本先生に質問に行っても教えてもらえないのはおかしいのではないのでしょうか」と。

字面だけを見れば確かにおかしいに決まっています。テキストを作った私が言うのですから間違いありません。

しかし、私の学校側への返答は次のようなものでした。「『教えてもらいましょう』というのは、何もやり方だけを教えてもらうことを意味しているではありません。既習事項に少しの知恵と洞察と根性をミックスすると、何も教えなくともできる可能性があるということを『教える』場面もあるのです。そしてうまく事が運んだ場合、教えられて得た知識の何倍もの知恵と経験が生徒に宿るのです」。専任の先生は、頭を抱えていましたが、その後どんな返答をその保護者にしたのか私は知りません。

教えることが嫌だったり面倒だったりして教えないのではなく、教えない方が教えることよりもよほど教育効果があると判断したり、自力で乗り越えられるほどの課題を目前にして、その課題を乗り越えられるだけの実力をその時点で蓄えていると判断される場合は「教えない」というよりも「待つ」のです。逆に必須指導箇所以外でも指導が必要だと判断した場合は、即座に「そろばんを持っておいで」となるわけです。

「わかりません」と持ってくる生徒の大半は、課題の困難さを自己の持つ

力だけで打ち破ることに自信が持てず、依頼心が表出した状態になっています。ですから、こういった場合には「いや、自分でわかるぞ」と励ましてあげるだけでたいてい大丈夫です。

「同じ答えになる」という訴えを持ってくる生徒には、誤答になる原因を即座に見つけて、まずは大きなヒントを出します。これは既習事項を守れていないことに原因がありますから、既習事項を思い出させるわけです。それでも同じ過ちを繰り返すと、これは既習事項を間違えたまま理解していることとなりますから、改めて別の例題を出して指導し直し、当該問題に再度チャレンジさせます。質問が発生している問題そのもので教えないのは、ここでもやはり最終的には自分自身で決着をつけてほしいからに他なりません。適切な例題が思いつかない場合や、複数人が列をなして採点待ちをしている場合などは当該問題で直接指導する場合がありますが、その場合でもそろばんに正答がでた瞬間に私はわざと「地震だ!」「台風だ!」などと叫びながらそろばん面を崩して、生徒自身にもう一度自席で答えを出させます。

幾度も違う答えを出す生徒の場合は、目前で計算させる場合があります。これは何も考えずに次々と進みだがる生徒に多いパターンですが、生徒が計算をする前に「先生はあなたが間違えた瞬間に大声で叫びます。そうするとみんなびっくりするので、大迷惑です。すべてはあなたにかかっています。慎重にやりなさい」と宣言します。生徒は恐る恐る計算を始めていき、なぜか他の生徒が固唾をのんで状況を見守るという変な空気が教室に漂います。そういう私も叫ぶ本人に違いないはずなのですが叫んでおきながら自分自身でびっくりしそうなのが嫌

で、生徒が間違えそうな雰囲気を出したり、今まさに違う珠をさわろうとする瞬間に「ンンン！！！」と低い声でうなってみたり拳をワナワナと音を立てて震えさせたりして、生徒にそれとなく危険領域に足を踏み入れそうなことをにおわせながら、何とか叫ばずに事を収めるのですが、しかし、こんな場合でも多くは「なんか、質問するようなところ、あった？」と私も生徒も拍子抜けするくらいスムーズに正答を出します。誤答原因は緊張感の欠如と集中力切れなのでしょう。

「珠算学習の本質」を書こうとして、どんどん本質から離れてしまっていますが、脱線ついでにもう少し…。

「質問するのは良いことだ」という言葉を勘違いしている人がたくさんいます。この言葉には前段階として、「質問する前提となる課題や指示をちゃんと見聞きしていたか」「内容を熟考したか」という点があるのですが、これらが欠落したままなのです。

大会や教室で、私はよく「一度しか言いません。そのかわり誰にでもわかるように言います。座席に座ったまま口々に質問しても受け付けません。どうしても質問したいことがあれば、私のところに来て質問してください」と宣言して指示を出します。これだと「わからなければ誰かにがすぐに教えてくれる」という安易な気持ちで漫然と見聞きするわけにはいきません。緊張感が生まれます。質問もほとんどありません。さすがに指示を理解できないであろう年齢の生徒や、不慣れな生徒にはさりげなく救いの手をさしのべますが、それとてもそれらの生徒が少しがんばれば手が届きそうなところまでに救いの手をとどめておきます。

白状しますと、実はこの緊張感は私にも生まれるのです。先の注意を耳に

した生徒の耳目は一瞬にして私に集まるわけです。自然、発する言葉に意味を持たせる必要が否応にも高まり、これが無駄な発問や言葉がけの排除につながって、授業にテンポとリズムが出るという好循環になるのですが、逆に過保護が生み出す悪い例の一つ書いておきましょう。

親切だと勘違いして行う指示の繰り返し返しが、実は子どもの依存心を増長させるのです。

運動会シーズンが過ぎましたが、保護者や生徒の皆さんはこんな光景に遭遇したことはないでしょうか。(架空のものです。)

朝礼台(指揮台)にマイクを持つ先生Aが一人。マ스ゲームのために整列している生徒の間を見回る先生BCDの三人。A先生が大声で指示をします。「今から音楽を流します。音楽が鳴り始めてから、3秒後に回れ右をして、5歩進んで高く垂直跳びをしなさい」。

よせばいいのにBCDの三先生は口々に「いいか～。3秒後に回れ右をして5歩進んでジャンプするんだぞ～」と言いながらキョロキョロ生徒を見回しつつ歩を進めます。

目を開けて寝るのが得意な生徒TはBCDの三先生が思い思いの順序で言う数字が頭の中でごちゃ混ぜになって「3秒間歌を歌って5回ジャンプする」と聞き取ります。

また繰り返しの質問に食らいついて即座に確認することを特技にする他の生徒約15名ほどは、この時とばかりに三先生の指示の繰り返しをまたまた繰り返します。

その様子を指揮台から見ているA先生は、生徒がざわつき出したことからさらに大きな声を出して「音楽が鳴り始めてから3秒後に後ろ向きに5歩進

んで跳ぶのだ〜〜〜」とやります。たまたま目を開けて起きていたTは、パニックです。15名は「どちらに跳ぶのですかー？」

これを修羅場といいます。

☆短所を自覚し、長所に変える

そろばんの練習は「物事を正確に早く処理する訓練」です。

珠算1級の見取算は10桁の数字を10個足したり引いたりする課題で、平均すると1分以内に正答を得ると合格となります。実際の試験では、かけ算20題、わり算20題、みとり算10題をまとめて30分で計時しますので、各種目を仮に10分ずつに等分すると、みとり算は平均1題1分となるわけです。1題の総字数は1000字で、指が動く回数は1題あたり200〜300回くらいになるのでしょうか。途中わずか1カ所間違えてもバツとなるわけで、何と99.7%正しいことをしていてもダメなものはダメなのです。こうして改めて文字にしてみますと、とんでもなく困難なことをしているように思えてくるのは私だけでしょうか。

さて、信じられないかもしれませんが、3級を受験する頃になっても「11-6」を「7」としてしまう間違いに陥る生徒が少なからずいます。「14-6」は間違えません。これはここでは詳しくは述べませんが、そろばんという計算器具の形状に起因する現象だと言えます。「100-1」を「89」にしてしまう間違いも同様です。ゆっくり考えながら珠をはじいたり、間違えやすい問題ばかりで構成されていることを生徒が自覚して計算している時にはあまり発生しない間違いなのですが、試験の模擬練習や誤算原因を防ぐという意識をあまり持たないまま計算するような、いわば、ある「流れ」の

中だとママ見受けられる間違いです。

前述した「同じ答えになる」という訴えで生徒が質問に来ます。対面で計算させると、この間違いに陥っていることがあります。間違えたその瞬間にストップさせ、今まさに生徒がした計算を私が再現したり、生徒に再現させたりします。ここで生徒本人に気づかせるわけです。自分が陥りやすいパターンを自覚させることで、これらの危険箇所に出くわしたときに失敗を繰り返さないように自分をコントロールする意識を根付かせるのです。

地雷原のありかを知ることで安全なルートを確保するようなものでしょうか。

短所を長所に変化させるのです。

☆ささやかな成就感とちょっとした挫折感の繰り返し

教室では次のようなちょっとした挫折感が次々にやってきます。

「完璧！」と思って提出した課題に無言でバツをつけて返される。

「会心！」と思った試験が無惨な結果に終わる。

一生懸命練習しているのになかなか点数が上がらない。

テキストを前の段階に戻された。

チャレンジして、やはり無謀だったと思い知らされた。

当事者には「なにが『ちょっとした』だ！苦しんでいるのに。」と叱られそうなものもあるかもしれませんが、私もすべて経験してきたことばかりです。終わってしまえば、やはり「ちょっとした」程度のことだと思えますし、また、成長とともに図太くもなっていて、挫折感に「慣れ」もします。

また、教室では次のようなささやかな成就感も時には経験します。

ページが進んだ。

小テストで合格した。
最高点がでた。
いっぱいできた。
最短タイムでできた。
試験に合格した。大会で入賞した。
優勝した。
先生にほめられた。
自分でできた。
チャレンジして、成功した。

成就感ばかりを経験して大人になることも、挫折感ばかりに苛まれて大人になることも、どちらも良いことではありません。大切なのはバランスです。

珠算塾では、これらの経験を適度に得られる場面が、システムとして備わっています。

そして、これらの経験の繰り返しが、人間力を高めていくものだと確信しています。

ずっと「勝ち組」で育ってきた者は受けに回ると非常にもろいものです。向かい風が吹くと他者への攻撃でもって精神の平衡を保とうとして自他共に破滅に追い込む例が後を絶ちません。

逆にずっと「負け組」で育ってきた者は、自信喪失と積極性の欠如が顕著に表れてきます。何事にも興味を持つはずの低年齢期にこういった状況が続くと、健やかな心身の発達は非常に困難になってくるでしょう。

ちょっとした挫折感の中から闘志と希望を沸き立たせたり、ささやかな成就感を味わいながら慎み深さと謙虚さ、そして挫折感に耐えうる精神のビタミンを蓄積させる珠算学習……、私は史上最強の習い事だと心の底から信じています。

昔から日本各所に連綿と掲げられている「そろばん塾」の看板を汚すことのないよう、塾報100号発行の節目に、決意表明させていただきました。

☆「勉強に生かせるポイント」(蛇足)

四則計算で言えば、中学生の数学や理科で、間違いなく珠算式暗算能力や珠算の練習で磨かれた計数感覚が生かされます。さらに、正確な処理能力は高等数学でいかに発揮されることでしょう。

たとえば3桁×2桁の計算が暗算できると、面積・体積の計算や発熱量・オームの法則などの電気関係などなどで直接のメリットを体感できます。因数分解で、因数を案出するのも有利です。4桁の加減算ができれば、「15時38分の4時間46分前は何時何分？」というような計算も一瞬でしょう。

かりに、暗算力がそこまで備わっていないくとも、珠算学習で培われる様々な無形の能力は、漢方薬のような働きをして、体質改善につながっていきます。

上級者は1級の見取算を暗算で計算していきませんが、あえてそろばんを使って計算するように指示を出すことがあります。条件はただ一つ。「問題をパッと見て一瞬で暗記せよ」です。一瞬で覚えられる桁数は個人差がありますが、間違いなく言えることは、桁数は珠算や暗算の技術に比例しているということです。珠算技術は伸びる速度に個人差はもちろんあるものの、一人ひとりそれぞれが練習量に比例して伸びていくのは確実ですから、前述のような「一度に処理できる能力」が珠算の練習によって高まっていくのは明らかです。

せっかく何かの縁で飛び込んだそろばんの世界です。目標を高く持って、骨までしゃぶり尽くしてみませんか。-----
長々と読んで下さりどうもありがとうございました。皆様、よいお年を！

2012年11月実施 珠算・暗算能力テスト「i-test」結果

(一般社団法人 大阪珠算協会 主催)

	×	÷	見	×暗	÷暗	見暗
山内優歩	準二段	準初段	準初段	1級	準二段	準2級
森岡賢一		準3級	準2級	5級		
齋藤小春	準1級	3級	2級	準3級	5級	3級
細川大輝	4級	6級		5級	3級	6級
西村早貴	準三段				準二段	
奥田南海	1級	1級	1級	3級	2級	3級
福田陸人	準三段	準三段		三段	準三段	四段
文沢駿介		準2級	3級		7級	
田伐志帆	準三段	準二段	準二段		準二段	準2級
堂野宗一郎	準1級		準2級			
久保心暖	7級					8級
塚本旬			準3級			7級
佃花音		6級				5級
山本紗利那	初段	1級	1級	3級	3級	
金本三夢	十段	十段	11段	十段	十段	11段
加地世菜			4級			
湊結子	初段	準初段	1級		1級	準2級
文沢一花		6級	準2級	5級		6級
入口寛都			6級			
森岡優海	準初段	準初段	準初段	準2級	準初段	3級
古川愛佳	準2級	8級	3級	6級		
辻尾菜々	初段	初段	準二段		1級	準初段
楓まい	初段	初段	初段		1級	2級
池田優花						7級
山内美空	5級			8級		7級
奥田あさひ	三段	準三段				準初段
山本夕有花	準2級	3級	3級	7級	4級	6級
久保田莉央			準3級			
永田綾稀	2級	準2級	準2級		6級	
深江菜月						
古川和佳		準2級		準3級	準3級	
中島萌唯		準2級	2級			準3級

	×	÷	見	× 暗	÷ 暗	見暗
森本倫才	7級		5級			
梶原太智	準2級	3級		6級	4級	
金本愛夢		六段	九段	七段	六段	八段
眞井夏希	2級	3級	2級	5級	5級	5級
矢野尊						
竹下椋香	準2級		3級			
岩成海	準四段		六段	準四段		
加地優真	4級	6級				5級
関明日香	初段		1級			
岩瀬菜々香	5級		3級			8級
湯浅彩乃	準2級	準2級	2級			
平井望彩		9級	7級	10級		9級
出口来実	8級		4級			8級
前田小春		8級	3級	7級		7級
西田旭歩		3級	準2級	7級	3級	準3級
金本大夢	十段	十段	十段	十段	11段	十段
北森遥弥	3級		準2級	6級		6級
北森彩月		10級	準3級			7級
山内星徳	六段	準四段	準四段	三段	四段	三段
神山周	準三段	準三段	三段		準二段	三段
木村理仁		初段	準初段		初段	準初段
小西真雪	準3級	6級		6級		6級
楓陸	4級	6級	5級	8級		
森宥友			4級			
井上寛大	4級	6級	4級	8級		8級

※i-testは1種目だけの受験ができます。空欄は、受験していないか、または、基準点に達せず段や級が認定されていない種目です。

※12月25日の日本テレビ早朝の番組、ZIP年末総集編に今年5月に中継がありました当教室が少しだけ映るという連絡が入りました。

※1月3日の関西テレビ「よーいドン」の人間国宝コーナーに、ウチの末娘が4歳頃に取材を受けたときの模様が一部再放送されるという連絡が入りました。